

## 特別支援学校（病弱教育）小学部の 教育課程編成について

—学力補償と自立活動に関する時間設定の視点から—

杉本 久吉

### 1 調査の目的及び方法

#### (1) 目的と背景

1988年の文部科学省の病気療養児の教育に関する調査研究協力者会議「病気療養児の教育について（審議のまとめ）」<sup>\*1</sup>では病弱教育の意義として「病気療養児は、長期、短期、頻回の入院等による学習空白によって、学習に遅れが生じたり、回復後においては学業不振になることも多く、病気療養児に対する教育は、このような学習の遅れなどを補完し、学力を補償する上で、もとより重要な意義を有するものである」と教科学習面での対応の必要性を述べている。また、同報告ではこれに続けて「その他に、一般に次のような点についての意義があると考えられている」として「積極性・自主性・社会性の涵養」「心理的安定への寄与」「病気に対する自己管理能力」「治療の効果等」の4点をあげている。これらの点は、当時の養護・訓練を経て、同報告の翌年改称・改訂となった現在の自立活動の内容に含まれるものである。

自立活動は、障害による学習上・生活上の困難の改善・克服にかかわる学習領域で、特別支援学校の教育課程の特色である。病弱教育の自立活動について、武田（2011）<sup>\*2</sup>は、「セルフケアを育成するための重要な『領域』」とし、一般的に必要な主な具体的な指導内容として「病気の理解、生活様式の理解、生活習慣の形成等に関する内容」と「心理的な安定に関する内容」をあげている。ただ、これらの指導について、どの程度時間が必要なのかについては、特別支援学校学習指導要領において「総授業時数は、小学校又は中学校の各学年における総授業時数に準ずるものとする。この場合、各教科等の目標及び内容を考慮し、それぞれの年間の授業時数を適切に定めるものとする。（中略）自立活動の時間に充てる授業時数は、児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じて、適切に定めるものとする。」<sup>\*3</sup>とされている。そして、「総授業時数は、小学校又は中学校の各学年における総授業時数に準ずるものとする。」<sup>\*4</sup>と規定されている。したがって、特別支援学校の小学部には、小学校と同じ年間総授業時数の中で、小学校の各教科の授業時数をどの程度、自立活動に振り分けるかの判断が求められているのである。

この状況に加えて、現行学習指導要領では、「教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。その際、児童又は生徒に何が身に付いたかという学習の成果を的確に捉え、第3節の3の（3）のイに示す個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげていくよう工夫すること。」<sup>\*5</sup>として、個別の指導計画の実施状況を踏まえての教育課程改善を求めている。学習指導要領の解説では、学校で編成する教育課程編成の基本的要素として「学校の教育目標の設定、指導内容の組織及び授業時数の配当」<sup>\*6</sup>をあげている。

これらが示すように特別支援学校（病弱教育）の教員には、病弱教育の課題である学力補償と自立活動の実施に向け、児童の教育ニーズに応じて望ましい授業時数配当を行える能力を有することが、求められているといえよう。また、この教育課程編成の実態を的確に把握し伝えていくことは、特別支援学校教員を目指す学生に、実際の指導の枠組みを伝える材料となるものであろう。

ところでこうした課題のある病弱教育の教育課程を考えていく上では、時数配当に関する情報は重要であると思われるが、特別支援学校の教科等の時数にかかわる情報は、極めて少ない。Ciniiで「病弱 教育 自立活動」のキーワード検索で18件、「病弱 特別支援 教育課程」のキーワード検索で30件表示され、武田（2006）「病弱教育における自立活動の行き詰まりとその打開策」<sup>\*7</sup>のほか、滝川（2021、2016）、田中（2021）、中島ら（2019）、渡辺（2018）、北島（2018）、江川（2017）などが把握されたが、いずれも自立活動の指導上の課題や、学習指導要領の解説、各学校の教育課程編成等に関する内容で、授業時数に関する情報への言及がなかった。古屋（2008）<sup>\*8</sup>は、特別支援学級の時間割を取り上げていたが、特別支援学校の状況に触れる内容は含まれていなかった。

これらのことから、本調査を行い、自立活動を含めた教育課程編成状況を把握することとした。

## （2）方法

### ①調査対象及び調査手続き

#### ア 調査対象

インターネット上に公開されている病弱教育部門のある特別支援学校小学部の教育課程に関する情報（新学習指導要領によるもの）

#### イ 調査手続き

特別支援学校（病弱教育）校長会による学校一覧表及び、各都道府県教育委員会のHP掲載の特別支援学校一覧より、病弱教育部門のある学校のHPを閲覧し、関連する資料を検索、収集した

ウ 調査期間

2022年9月から12月に実施した。

②調査項目

特別支援学校（病弱教育）小学部の病弱単一障害を対象とした、現行学習指導要領（文部科学省 2017）による小学校の各教科と自立活動により編成された教育課程の教育課程表もしくは、時間割表

③資料収集数

収集できた教育課程表は52件でその内訳は以下のとおり。

収集できた教育課程表（教科等の年間時数）（ ）は全学校数

収集 できた学年	病弱単一障害		複数障害併置		分教室
	本校 (56)	分校 (14)	本校 (98)	分校 (3)	
全学年	12	2	15	2	4
一部	7	1	4	0	5

全学校（病弱教育）数は、文部科学省「特別支援教育資料 令和3年度」\*9より

## 2 調査結果

### （1）各教科等の時数及び年間総授業時数の平均

#### ①本校・分校の状況

表1は、全学年分を収集できた本校及び分校31校の教育課程表を集約し、各教科等の時数の平均を示したものである。元データが、週当たりの単位時数（以下、単位時数）もしくは時間割表の場合は、単位時数に読み替えて得た単位時数に小1は34、他の学年は35を乗じて得たものを集計した。掲載データが実時数表記で、35（小1は34）の倍数でない場合もそのまま、集計している。

表1 各教科等の年間授業時数の平均（全学年収集できた本校・分校の集計）

下段は学校教育法施行規則の小学校の標準時数

太字斜体はそれを10時間以上下回るもの 太字は10時間以上上回るもの

教科\学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語	<b>289.0</b> 306	<b>298.3</b> 315	238.6 245	238.2 245	176.6 175	175.4 175
社会	— —	— —	70.2 70	90.3 90	97 100	101.3 105
算数	138 136	176.4 175	174.9 175	176.8 175	173.6 175	173.6 175
理科	— —	— —	92.6 90	105.5 105	102.3 105	101.7 105

生活	100.2 102	102.7 105	— —	— —	— —	— —
音楽	66.9 68	68.7 70	57.4 60	56 60	48.4 50	48.1 50
図画工作	66.6 68	68.3 70	59.5 60	59.4 60	49.6 50	49.2 50
家庭	— —	— —	— —	— —	56.7 60	54.7 55
体育	<b>69.2</b> 102	<b>71</b> 105	<b>67.9</b> 105	<b>67.9</b> 105	<b>61.9</b> 90	<b>61.9</b> 90
外国語	— —	— —	— —	— —	67 70	67.5 70
道徳	34.4 34	35.3 35	34.7 35	35.3 35	35.2 35	35.2 35
総合的な 学習の時間	— —	— —	<b>55.7</b> 70	<b>55.7</b> 70	<b>54.0</b> 70	<b>54</b> 70
外国語活動	— —	— —	34.3 35	34.2 35	— —	— —
特別活動	33.8 34	34.7 35	34.7 35	34.7 35	34.7 35	34.7 35
自立活動	<b>70.6</b>	<b>72.6</b>	<b>73.3</b>	<b>74.3</b>	<b>70.4</b>	<b>70.4</b>
年間総授業 時数	<b>868.6</b> 850	<b>927.5</b> 910	<b>993</b> 980	<b>1028.1</b> 1015	<b>1027.4</b> 1015	<b>1027.7</b> 1015

この表からは、収集された資料全体の傾向として、自立活動の時間は、週当たり2コマが設定されていること、その時間を確保するため、1、2年生は国語と体育、3年生以上は体育と総合的な学習の時間から時間数を割いて対応していることが分かった。また、総授業時数（以下 総時数）についても、集計対象の31校のうち、6年生の総時数が、標準より20時間以上多く設定しており、その結果、平均の上で、小学校の標準時数を10—16時間程度超えることが分かった。

## ②分教室の状況

表2は、分教室4件の平均である。病院の生活規制があり、この表の対象校の半数の2例が特別支援学校学習指導要領総則の「重複障害者等に関する教育課程の取扱い6」\*10を適用し、総時数を標準より70時間少ない編成を行っている。その中で、自立活動の時間については、週当たり1.5コマ程度設定するため、低学年は、国語、生活、体育（1年は算数も）、中高学年は、理科、家庭、体育、外国語（教科・活動）、総合的な学習の時間を減らして、確保している（高学年は、社会も10時間に少し欠けるものの、時数減となっている）。一方で、音楽の時数を増やしている。

表2 各教科等の年間授業時数の平均（全学年収集できた病院内分教室）

下段は学校教育法施行規則の小学校の標準時数

太字斜体はそれを10時間以上下回るもの 太字は10時間以上上回るもの

教科\学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語	<b>255.0</b> 306	<b>253.8</b> 315	<b>218.8</b> 245	<b>210.0</b> 245	179.4 175	179.4 175
社会	— —	— —	74.4 70	91.9 90	91.9 100	91.9 100
算数	<b>153.0</b> 136	175.0 175	175.0 175	175.0 175	175.0 175	175.0 175
理科	— —	— —	88.1 90	<b>88.1</b> 105	<b>87.5</b> 105	<b>87.5</b> 105
生活	<b>76.5</b> 102	<b>87.5</b> 105	— —	— —	— —	— —
音楽	59.5 68	61.3 70	65.6 60	65.6 60	<b>65.6</b> 50	<b>65.6</b> 50
図画工作	68.0 68	70.0 70	65.6 60	65.6 60	56.9 50	56.9 50
家庭	— —	— —	— —	— —	<b>44.4</b> 60	<b>44.4</b> 60
体育	<b>51.0</b> 102	<b>52.5</b> 105	<b>52.5</b> 105	<b>52.5</b> 105	<b>39.4</b> 90	<b>39.4</b> 90
外国語	— —	— —	— —	— —	<b>47.5</b> 70	<b>47.5</b> 70
道徳	34.0 34	35.0 35	35.0 35	35.0 35	30.6 35	30.6 35
総合的な学習の時間	— —	— —	<b>43.8</b> 70	<b>52.5</b> 70	<b>52.5</b> 70	<b>52.5</b> 70
外国語活動	— —	— —	<b>21.3</b> 35	<b>21.3</b> 35	— —	— —
特別活動	25.5 34	26.3 35	35.0 35	35.0 35	30.6 35	30.6 35
自立活動	<b>42.5</b>	<b>43.8</b>	<b>52.5</b>	<b>52.5</b>	<b>43.8</b>	<b>43.8</b>
年間総授業時数	<b>765.0</b> 850	<b>805.0</b> 910	<b>927.5</b> 980	<b>945.0</b> 1015	<b>945.0</b> 1015	<b>945.0</b> 1015

なお、総時数の不足例については、分教室ばかりでなく、本校においても、見られている。表1の集計対象（全学年掲載校）では、1校であったが、収集できた情報中、表1の集計対象外としたいいくつかの学年のみ示している場合で、6年生の時数を掲載している10校では、4校が標準総時数を下回っていた。HP上に、教育課程表や時間割を示していない学校でも、校時表を掲載しており、その多くは、単位時間や1日あたりのコマ数は、標準総時数を満たせる条件を備えていたが、中には、隣接する病院の日課を示して、最大25コマ程度であることを示す学校もあり、特別支援学校（病弱教育）においては、分教室だけでなく、本校においても授業時数の確保そのものを課題とする場合があることが伺われた。

## (2) 自立活動の時間数ごとの状況

(1)の表1で示したように、本校及び分校の自立活動の平均時数は年70時間、週当たり2コマであるが、学校によって最少、年35時間(週1コマ)から最大、年188時間(週5.3コマ)までと幅があった。また、学年によって、時間数の増減がある学校が6校あり、減じていく学校が4校、増加が1校、増減する学校が1校あった(別項で掲載)。集計の便宜上設けた時数(4区間)別の校数は、表3のとおりで、平均で求められた年70時間(週2コマ)の学校が半数近くを占めるが、35時間(週1コマ)が4分の1、反対に87時間(2.5コマ)以上設定している学校も4分の1あった。学年で時間数が変わる学校は、最も多い学年の時数で振り分けて整理した。

表3 自立活動の配当時数(学年当たり)別校数

学年当たり配当時数 (週コマ数)	35-37 (1.0)	52-70 (1.5-2)	81-105 (2.5-3)	128-187 (3.7-5.3)
校数	8	15	5	3
(%)	(25.0)	(50.0)	(15.6)	(9.4)

以下、表3に示した自立活動の週コマ数(1コマ、1.5~2コマ、2.5コマ以上)ごとに1・3・5学年の授業時数配当において標準時数と10時間(週当たり約0.3コマ)以上の増減がある項目を取り上げ、学力補償と自立活動対応にかかわる教育課程の編成状況の特徴について述べる。(総時数については、30時間程度以上の増減の場合に考慮対象とする)

### ①週1コマ配当校の状況

表4は、週当たり1コマの自立活動の時間を設定している8校の時数配当状況である。1コマ分の調整であるが、多様な対応状況がある。

1年では、自立活動の時間確保だけの対応例は、体育の減が4校、国語の減が2校であった。他教科等増との関連では、体育の減と総時数増で生活の増、国語の減と総時数増で10時間以下の調整であるが算数・生活・体育の増が、各1校あった。

3年では、自立活動の時間確保だけの対応例は、体育の減が3校、総時数の増が1校であった。他教科等増との関連としては、国語・体育の減と理科・音楽・図工の増、算数・理科の減と総時数の増で音楽・図工を増、体育・総合の減と理科・音楽・図工を増、国語と10時間以下だが音楽・図工の減と理科の増が各1校と多くのパターンが見られている。

5年では、自立活動の時間確保だけの対応例は、体育の減が3校、社会の減が1校、総時数の増だけでの対応が1校であった。他教科等増との関連では、社会・家庭・体育の減と音楽・図工の増、社会・算数・体育の減と総時数増で音楽・図工・家庭の増、体育・総合の減と家庭の増が各1校となっている。

表4 自立活動週 1 コマ配当校の教育課程（1・3・5年）の状況

斜体は標準時数を10時間以上下回るもの 太字は10時間以上上回るもの  
網掛け部分は、10時間以下の調整 総時数は30時間程度の増減を対象（以下同様）

学年・ 教科 学校No.	1年					3年							5年								
	国	算	生	体	総時	国	算	理	音	図	体	総学	総時	社	算	音	図	家	体	総合	総時
1	<b>272</b>	136	102	102	850	<b>210</b>	175	<b>105</b>	<b>70</b>	<b>70</b>	<b>70</b>	70	980	<b>70</b>	175	<b>70</b>	<b>70</b>	<b>35</b>	<b>70</b>	70	1015
2	<b>272</b>	136	102	102	850	<b>210</b>	175	<b>105</b>	<i>53</i>	<i>53</i>	105	70	980	<b>70</b>	175	53	52.5	53	87.5	70	1015
3	<b>284</b>	<i>144</i>	<i>109</i>	<i>110</i>	<b>904</b>	249	<b>145</b>	<b>73</b>	<b>73</b>	<b>73</b>	110	73	<b>1017</b>	<b>72</b>	<b>144</b>	<b>72</b>	<b>72</b>	<b>72</b>	<b>72</b>	72	<b>1043</b>
4	306	136	102	<b>68</b>	850	245	175	90	60	60	<b>70</b>	70	980	100	175	50	50	60	<b>56</b>	70	1016
5	306	136	102	<b>68</b>	850	245	175	90	60	60	<b>70</b>	70	980	100	175	50	50	60	<b>55</b>	70	1015
6	306	136	102	<b>68</b>	850	245	175	<b>105</b>	<b>70</b>	<b>70</b>	<b>70</b>	<b>35</b>	980	105	175	53	52.5	<b>70</b>	<b>70</b>	<b>35</b>	1015
7	306	136	102	<b>68</b>	850	245	175	90	60	60	<b>70</b>	70	980	100	175	50	50	60	<b>55</b>	70	1015
8	306	136	<b>136</b>	<b>68</b>	<b>884</b>	245	175	90	60	60	105	70	<b>1015</b>	100	175	50	50	60	90	70	<b>1050</b>
標準時数	306	136	102	102	850	245	175	90	60	60	105	70	980	100	175	50	50	60	90	70	1015

②週1.5—2 コマ配当校の状況

表5は、週当たり1.5～2コマの自立活動の時間を設定している15校の時数配当状況である。（この項は、自立活動の時数も表示）

小1では、自立活動の時間確保だけの対応例は、体育2コマ減4校、国語・体育の減3校、国語2コマ減、国語・生活の減、図工・体育の減、生活・体育の減、国語・体育を減じ合わせて総時数増、総時数増のみが各1校である。他教科等増との関連では国・算・体を減と特活の増が1校あった。

小3では、自立活動の時間確保だけの対応例は、体育2コマ減と体育・総合減が各2校、国語・総合の減、国語・音楽・体育の減、国語・音楽・図工の減、音楽・図工・体育の減、音楽・外国語活動の減と総時数増が、各1校あった。他教科等増の関連では、体育・総合の減と音楽・図工の増、国語・体育の減と理科・音楽・図工の増、体育・総合の減と国語・算数の増、国語・算数・体育の減と図工・道徳・特活の増、理科・体育の減と図工の増、体育・総合の減と理科・音楽・図工の増が各1校あった。

表5-1 自立活動週 1.5-2 コマ配当校の教育課程（1・3・5年）の状況

学年・ 教科 学校No.	1年								3年											
	国	算	生	図	体	特	自立	総時	国	算	理	音	図	体	道	総学	外活	特	自立	総時
9	<b>238</b>	136	102	68	102	34	<b>68</b>	850	<b>210</b>	175	90	60	60	105	35	<b>35</b>	35	35	<b>70</b>	980
10	<b>272</b>	136	102	68	<b>68</b>	34	<b>68</b>	850	245	175	91	60	59.5	<b>70</b>	35	<b>35</b>	35	35	<b>70</b>	980
11	<b>272</b>	136	102	68	<b>68</b>	34	<b>68</b>	850	245	175	90	<b>70</b>	<b>70</b>	<b>50</b>	35	<b>35</b>	35	35	<b>70</b>	980
12	<b>272</b>	136	<b>68</b>	68	102	34	<b>68</b>	850	<b>210</b>	175	90	<b>35</b>	<b>50</b>	105	35	70	35	35	<b>70</b>	980
13	<b>280</b>	140	105	70	<b>70</b>	35	<b>70</b>	875	<b>210</b>	175	<b>70</b>	<b>70</b>	<b>70</b>	<b>70</b>	35	70	35	35	<b>70</b>	980
14	<b>288</b>	<i>144</i>	<i>108</i>	72	<b>72</b>	36	<b>72</b>	<b>900</b>	<b>259</b>	<b>185</b>	95	55	55	<b>74</b>	<b>37</b>	<b>37</b>	37	37	55	<b>1000</b>
15	<b>289</b>	<b>119</b>	102	68	<b>68</b>	<b>51</b>	<b>51</b>	850	<b>228</b>	<b>158</b>	88	53	<b>70</b>	<b>70</b>	<b>53</b>	70	35	<b>52.5</b>	<b>52.5</b>	980
16	306	136	102	68	<b>34</b>	34	<b>51</b>	833	245	175	91	60	59.5	<b>35</b>	35	70	35	35	<b>52.5</b>	962.5
17	306	136	102	<b>34</b>	<b>68</b>	34	<b>68</b>	850	245	175	90	<b>50</b>	<b>35</b>	<b>70</b>	35	70	35	35	<b>70</b>	980
18	306	136	98	68	<b>60</b>	34	<b>60</b>	856	245	175	<b>70</b>	62	<b>70</b>	<b>62</b>	35	70	35	35	<b>62</b>	991
19	306	136	<b>68</b>	68	<b>68</b>	34	<b>68</b>	850	245	175	91	60	59.5	<b>70</b>	35	<b>35</b>	35	35	<b>70</b>	980
20	306	136	102	68	<b>34</b>	34	<b>68</b>	850	245	175	<b>105</b>	<b>70</b>	<b>70</b>	<b>35</b>	35	<b>35</b>	35	35	<b>70</b>	980
21	306	136	102	68	102	34	<b>68</b>	<b>918</b>	245	175	98	<b>46</b>	52.5	105	35	70	<b>14</b>	35	<b>70</b>	<b>1015</b>

22	306	136	102	68	<b>34</b>	34	<b>68</b>	850	245	175	90	60	60	<b>35</b>	35	70	35	35	<b>70</b>	980
23	306	136	102	68	<b>34</b>	34	<b>68</b>	850	245	175	90	60	60	<b>35</b>	35	70	35	35	<b>70</b>	980
標準時数	306	136	102	68	102	35	-	850	245	175	90	60	60	105	35	70	35	35	-	980

学年・ 教科 学校No.	5年													総時
	国	社	算	理	音	図	家	体	道	総学	外活	特		
9	170	100	170	100	50	50	55	<b>75</b>	70	<b>35</b>	35	<b>70</b>	1015	
10	175	105	175	105	52.5	53	<b>35</b>	<b>70</b>	70	<b>35</b>	35	<b>70</b>	1015	
11	175	105	175	105	<b>35</b>	55	<b>70</b>	<b>50</b>	70	<b>35</b>	35	<b>70</b>	1015	
12	175	100	<b>140</b>	105	<b>35</b>	<b>40</b>	<b>50</b>	90	70	70	35	<b>70</b>	1015	
13	175	105	175	<b>70</b>	<b>35</b>	<b>35</b>	<b>70</b>	<b>70</b>	70	70	35	<b>70</b>	1015	
14	<b>185</b>	<b>111</b>	<b>185</b>	111	44	44	<b>44</b>	<b>74</b>	74	<b>52</b>	37	<b>37</b>	<b>1035</b>	
15	175	<b>88</b>	175	105	52.5	53	52.5	<b>70</b>	70	<b>35</b>	<b>53</b>	<b>53</b>	1015	
16	175	102	175	105	49	49	<b>46</b>	<b>35</b>	70	70	35	<b>53</b>	997.5	
17	175	100	175	105	<b>35</b>	50	60	<b>70</b>	70	70	35	<b>35</b>	1015	
18	175	105	175	101	<b>31</b>	<b>31</b>	<b>70</b>	<b>62</b>	70	70	35	<b>62</b>	1022	
19	175	91	175	105	49	49	59.5	<b>70</b>	70	<b>35</b>	35	<b>56</b>	1005	
20	175	105	175	105	53	52	<b>70</b>	<b>35</b>	70	<b>35</b>	35	<b>70</b>	1015	
21	175	<b>88</b>	175	105	52.5	53	52.5	<b>105</b>	<b>35</b>	70	35	<b>70</b>	<b>1050</b>	
22	175	100	175	105	52.5	53	60	<b>45</b>	70	70	35	<b>70</b>	<b>1045</b>	
23	175	100	175	105	50	<b>35</b>	60	<b>35</b>	70	70	35	<b>70</b>	1015	
標準時数	175	100	175	105	50	50	60	90	70	70	35	-	1015	

小5では、全ての教科等での対応が見られた。自立活動の時間確保だけの対応例は、国語の減がなくなり、体育・総合の減と家庭・体育・総合の減が各2校、音楽・体育の減、図工・体育の減、家庭・体育の減、算数・音楽・図工・家庭の減、体育の減と総時数増が各1校あった。他教科等増の関連では、音楽・体育・総合の減と家庭の増、理科・音楽・体育の減と家庭の増、家庭・体育・総合の減と国語・社会・算数の増、社会・体育・総合の減と特活の増、音楽・図工・体育の減と家庭の増、体育・総合の減と家庭の増、社会・外国語の減と総時数の増で、体育の増が各1校あった。

③週2.5—3コマ・3.7—5.3コマ配当校の状況

表6は、週当たり2.5—3コマ及び3.7—5.3コマの自立活動の時間を設定している8校の時数配当状況である。(この項は、自立活動の時間数も掲載)

時数の捻出方法や学力補償対応策は多岐にわたり、標準時数と差がない項目は、小1の道徳のみで、小3、小5は、全ての教科等での調整が入っている。



表 6 自立活動週2.5コマ以上配当校の教育課程（1・3・5年）の状況

学年・ 教科 学校No.	1年								
	国	算	生	音	図	体	特	自立	総時
24	306	136	102	<b>51</b>	<b>51</b>	<b>51</b>	34	85	850
25	<b>330</b>	<b>170</b>	<b>85</b>	<b>51</b>	68	<b>68</b>	34	102	<b>942</b>
26	<b>292</b>	<b>146</b>	110	73	73	<b>73</b>	36	66	<b>905</b>
27	<b>238</b>	136	102	68	68	102	34	102	<b>884</b>
28	<b>272</b>	<b>170</b>	102	<b>51</b>	<b>51</b>	<b>34</b>	34	102	850
29	<b>272</b>	<b>102</b>	102	68	68	<b>68</b>	34	102	850
30	306	136	102	68	68	<b>34</b>	<b>0</b>	182	<b>930</b>
31	<b>227</b>	<b>151</b>	<b>76</b>	76	76	<b>76</b>	38	188	<b>946</b>
標準時数	306	136	102	68	68	102	34	-	850

学年・ 教科 学校No.	3年												
	国	社	算	理	音	図	体	道	総学	外活	特活	自立	総時
24	252	70	182	91	52.5	52.5	<b>53</b>	35	<b>35</b>	35	35	88	980
25	<b>297</b>	<b>60</b>	<b>193</b>	84	<b>35</b>	56	<b>70</b>	35	70	35	35	105	<b>1075</b>
26	245	74	<b>186</b>	90	56	56	<b>74</b>	37	<b>37</b>	37	37	117	<b>1046</b>
27	<b>210</b>	70	175	<b>105</b>	59.5	<b>70</b>	<b>70</b>	35	<b>21</b>	<b>25</b>	35	105	980
28	<b>210</b>	70	<b>193</b>	<b>105</b>	53	52	<b>35</b>	35	<b>52</b>	35	35	105	980
29	245	70	<b>140</b>	<b>105</b>	52	53	<b>70</b>	35	<b>35</b>	35	35	105	980
30	245	70	175	90	60	60	<b>35</b>	<b>0</b>	70	35	<b>0</b>	187	<b>1062</b>
31	<b>226</b>	75	<b>189</b>	<b>113</b>	<b>38</b>	<b>38</b>	<b>38</b>	38	<b>38</b>	38	38	187	<b>1056</b>
標準時数	245	70	175	90	60	60	105	35	70	35	35	-	980

学年・ 教科 学校No.	5年												
	国	社	算	理	音	図	家	体	外	総学	特活	自立	総時
24	175	105	175	105	52.5	52.5	52.5	<b>53</b>	70	<b>35</b>	35	70	1015
25	<b>197</b>	98	<b>192</b>	98	<b>35</b>	49	56	<b>70</b>	70	70	35	70	<b>1075</b>
26	<b>220</b>	92	183	<b>91</b>	<b>37</b>	<b>37</b>	<b>73</b>	<b>37</b>	73	<b>36</b>	37	112	<b>1065</b>
27	175	<b>88</b>	175	<b>88</b>	<b>59.5</b>	<b>59.5</b>	<b>70</b>	<b>70</b>	<b>35</b>	<b>21</b>	35	105	1015
28	175	<b>88</b>	<b>193</b>	<b>87</b>	53	52	52	<b>35</b>	70	<b>35</b>	35	105	1015
29	<b>140</b>	105	<b>140</b>	105	52	53	<b>35</b>	<b>70</b>	70	<b>35</b>	35	140	1015
30	175	100	175	105	50	50	60	<b>35</b>	70	<b>55</b>	<b>0</b>	187	<b>1097</b>
31	<b>186</b>	<b>112</b>	<b>186</b>	112	<b>37</b>	<b>37</b>	<b>37</b>	<b>37</b>	<b>37</b>	<b>37</b>	37	188	<b>1080</b>
標準時数	175	100	175	105	50	50	60	90	70	70	35	-	1015

小1では、自立活動の時間確保だけの対応例は、体育2コマ減と特活の減、国語2コマ減と総時数増、国語・算数・体育の減、音楽・図工・体育の減が各1校あった。他教科等増の関連では、生活・音楽・体育の減と総時数の増で国語・算数の増、国語・体育の減と総時数の増で算数の・生活の増、国語・音楽・図工・体育の減で算数の増、国語・生活・体育の減と総時数の増で算数の増（10時間以下だが、音楽・図工も増）が、各1校あった。

小3では、自立活動の時間確保だけの対応例は、体育2コマ・道徳・特活の減と総

時数増で自立活動5.3コマ確保、体育1.5コマ減・総合1コマ減で自立活動2.5コマ確保が各1校あった。他教科等増の関連では、社会・音楽・体育の減と総時数増で自立活動3コマ確保と国語・算数の増、体育・総合的な学習の時間減と総時数増で自立活動3.3コマ確保と算数の増、国語・体育・総合・外国語活動の減で自立活動3コマ確保と理科と図工の増、全8校、国語・体育・総合の減で自立活動3コマ確保と算数・理科の増、算数・体育・総合の減で自立活動3コマ確保と理科の増、国語・音楽・図工・体育・総合と総時数増で、自立活動5.3コマ確保と算数・理科の増が各1校あった。

小5では、自立活動の時間確保だけの対応例は、体育・総合の減で自立活動2コマ確保、体育・総合・特活の減と総時数増で自立活動5.3コマ確保、国語・算数・家庭・体育・総合の減で自立活動4コマ確保が各1校あった。他教科等増の関連では、音楽・体育の減と総時数増で自立活動2コマ確保と国語・算数の増、理科・音楽・図工・体育・総合の減と総時数増で自立活動3コマ確保と国語と家庭の増、社会・理科・体育・外国語・総合の減で自立活動3コマ確保と音楽・図工・家庭の増、社会・理科・体育・総合の減で自立活動3コマと算数の増、音楽・図工・家庭・体育・外国語・総合の減と総時数増で自立活動5.3コマと国語・社会・算数の増が各1校あった。

### (3) 学年によって自立活動の時間数が変わる場合

表7のように、自立活動の授業時数が、学年進行に従って、減少する学校が4校、増加する学校が1校、増減する学校が1校あった。

表7 学年によって自立活動の時間数に変化がある場合

学校No/学年	1	2	3	4	5	6
14	72	74	55	55	37	37
17	68	70	70	70	35	35
19	68	70	70	70	56	56
25	102	105	105	70	70	70
26	66	74	117	114	112	115
29	102	105	105	175	140	140

### (4) 通学状況・設置教育部門による教育課程編成の影響について

北島ら(2018)が池本(2009)の報告を踏まえ「病弱特別支援学校は児童生徒の通学状況(自宅、寄宿舎、施設、病院)や対応する障害種により、学校で編成される教育課程は異なる(複数の異なる類型をもつ)」(趣意)<sup>\*11</sup>としていることから、自立活動の時間数と通学状況・設置教育部門の関連を検討した。その資料を表8に示す。北島らの報告は、通学児童の障害の状態等による複数の教育課程類型<sup>\*12</sup>に関する指摘であり、今回の調査対象であるいわゆる「準ずる教育課程」内でのカテゴリズまで意図してはいないものであるが、学校の背景と教育課程編成との関連が、自立活動の時間数の設定に影響がないかを確認する意味で、この表を作成した。2重線で区

切ったところが、前掲の自立活動の時間数ごとのまとめりである。今回収集したデータと、通学状況のデータには、4年の時差があり、参考程度の資料となるが、病院からの通学者が多い学校では、自立活動の時間数は、2コマ以下となっている。他の要素については、明らかな関連は見られない。

表8 自立活動の時間数と通学状況・設置教育部門との関連

学校No	自立活動の授業コマ数	通学状況（在籍者の割合）				併置障害教育部門
		自宅	寄宿舍	施設	病院	
1	34.0	100.0	0.0	0.0	0.0	肢知
2	34.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
3	34.0	0.0	0.0	0.0	100.0	全
4	34.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
5	37.0	0.0	0.0	100.0	0.0	全
6	34.0	80.8	0.0	0.8	18.3	肢
7	34.0	76.8	23.2	0.0	0.0	
8	34.0	65.9	19.7	12.9	1.5	
9	69.7	96.9	0.0	0.0	3.1	
10	69.7	0.0	0.0	0.0	100.0	
11	69.7	88.9	0.0	0.0	11.1	肢知
12	69.7	34.8	65.2	0.0	0.0	肢知
13	70.0	46.2	15.4	3.8	34.6	肢
14	55.0	96.9	1.5	0.0	1.5	
15	52.3	66.7	0.0	0.0	33.3	
16	52.3	83.3	0.0	0.0	16.7	
17	58.0	100.0	0.0	0.0	0.0	肢知
18	61.7	79.7	0.0	0.0	20.3	肢知
19	65.0	91.7	8.3	0.0	0.0	
20	69.7	94.4	0.0	0.0	5.6	
21	69.7	0.0	0.0	100.0	0.0	知
22	69.7	0.0	0.0	0.0	100.0	
23	69.7	80.0	0.0	20.0	0.0	
24	81.3	79.3	0.0	17.2	3.4	
25	87.0	83.3	12.5	4.2	0.0	全
26	99.7	89.5	10.5	0.0	0.0	肢
27	104.5	0.0	0.0	100.0	0.0	
28	104.5	50.0	41.7	8.3	0.0	肢
29	127.8	70.8	0.0	0.0	29.2	肢
30	186.2	100.0	0.0	0.0	0.0	肢
31	186.8	66.0	0.0	2.1	31.9	

通学状況は「平成30年度全国特別支援学校長会の実態調査」\*13による（一部学校HPより作成）

### 3 考察

#### （1）教科等の時数配当の実際について

冒頭にも述べているように、特別支援学校（病弱教育）の小学校の各教科と自立活動で編成する教育課程（いわゆる「準ずる教育課程」）を履修する児童の多くは、原

籍校である地域の小学校に戻ることを前提としている。したがって、その学習においては、可能な限り学力補償の取り組みが求められるものの、そもそも教育課程の枠組みとして、小学校の標準授業時数の総授業時数の中で、各教科の時間を削って自立活動の時間を設けていくという大きな矛盾が、教育課程編成上の前提となっている。今回の調査で収集できた資料数は、全体の2割にも満たないものであるが、特別支援学校（病弱教育）の学力補償と自立活動の実施の両面に対応するという難題に、各学校が様々な工夫を行っている姿を伝える試みになったと考える。

自立活動の時数確保策として、低学年では標準時数枠が大きい国語科の時間を振り替える形が多くみられたものの、学力補償の面から国語の減を選択しないなど、削減する教科の選択の工夫や、さらには特別支援学校学習指導要領の規定を超えて、総授業時数を増やすなど、多様な形で各教科の時間数を増やしている状況もあり、各学校の先生方の編成上の苦心が伺われた。

また、音楽・図工・体育・家庭の実技系の教科の時数増を選択する学校があったことに触れておきたい。体育については、活動制限や児童数の少なさによる指導内容の制限が考えられることから、自立活動の時間数の確保対象として全学年・全自立活動時数パターンで扱われていた。その一方で、体育の時数確保を選択する例が一部ではあるが見られた。また、音楽・図工・家庭の時数増の例も、算数・理科に劣らない程の例があり、病院内学級のケースも含めて、表現や鑑賞の活動を通じて、心理的な安定等につなげられる学習として重視する学校が少なくないことも把握された。これらの教科の時数増を選択している学校の成果について共有していくことで、自立活動の時間の在り方や各教科の時数配当を検討する材料が、より明らかになるように思われる。

## （2）自立活動の時間数の背景について

今回の調査では、自立活動を週当たり2コマ配当している学校が、約半数であったが、全体としては1コマから最大5.3コマまでと多様な実態があった。この設定の背景について、指導内容の面から考えておきたい。

冒頭に引用したように、武田（2011）<sup>\*2</sup>は、病弱教育において一般的に必要な主な具体的な自立活動の指導内容として「病気の理解、生活様式の理解、生活習慣の形成等に関する内容」と「心理的な安定に関する内容」をあげている。

前者の内容は、「健康の保持」区分の「病気の状態の理解と生活管理に関すること」「身体各部の状態の理解と養護に関すること」「健康状態の維持・改善に関すること」が軸となるが、これらは医療・看護の関わりに重なるものである。「障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能」（自立活動の目標の前半部分）<sup>\*14</sup>にかかわる学習は、病院隣接校に限らず、児童にとっては、日常医師・看護師から聞かされる内容とも重なるものであろう。この学びは、慢性疾

患等のセルフケアの力であり、特別支援学校（病弱教育）からの転出・卒業後の自立・社会参加において確実に身につけている必要がある、領域の目標の後段に当たる「態度及び習慣」の形成に至ることを目指すものである。ただ、その主な内容である病気に関する知識の学習と生活管理の習慣化の学びについては、さほど多くの時間を必要としないものであろう。

武田が示す自立活動の内容の後者である「心理的な安定」区分には、病弱教育に関連しては「情緒の安定に関すること」「障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること」がある。児童にとって原籍校に戻ることを前提に考えれば、心理的な安定には、教科学習の時数補償は重要である。にもかかわらず、その時数を減らしても、週当たり2コマ以上自立活動の学習に取り組むべき状況があると考えられる学校が調査対象の4分の3にも及んだことに注目しておきたい。前述のように、病気の知識等の学びには、多くの時間は不要であり、武田（2011）<sup>\*2</sup>が取り上げている「病気の状態や入院等の環境に基づく心理的不適応の改善」や「諸活動による情緒の安定」にかかわる内容は、将来に向けた学びではなく、現在、学校生活を送っていくために必要な楽しい学校生活を送ることに繋がる活動が少なくないであろう。

今回、北島らの通学状況等による教育課程類型化対応を参考に通学状況と自立活動の授業時数の関連の検討をしたが、今回収集した資料からは、病院からの通学者が100%の学校は、自立活動の時間数が1～2コマにとどまっていた。病院隣接校では、セルフケアの知識・生活管理の部分を病院にも担ってもらうことで、自立活動の時間の指導を最小限にできているということも考えられるであろう。

自立活動は、個別の指導計画により全教育活動を通じて指導・評価が行われている。各教科等の指導においても心理的なケアを担う指導を行えている事例<sup>\*15</sup>も見られ、コマ数だけでは把握できない実態がある。自立活動の指導については、道徳科のように、全教育活動を通じた学びとその学びの補充・深化・統合の役割をもつ時間の指導という構造でとらえて、個別の指導計画の策定・実施・評価を考えていくことも今後考えていきたい視点である。

もう一点、自立活動の時間数の配当を学年によって変える事例が、収集された資料中2割存在したことが提起している課題である。杉本（2021）<sup>\*16</sup>は、病気の理解やセルフケアで取り上げる内容が、その児童の学年の体育科や理科などでまだ扱わない場合には、病気の種類や状態から必要があったとしても、学習目標として設定できるケースが少なくなることを予想している。個別性を前提とした指導領域である自立活動ではあるが、学年単位での教育計画を策定する以上、発達段階等への対応も考慮する必要がある、学年進行に合わせて教科の時数とともに、自立活動の時数を増やしていくことを試行しているケースがあることに注目しておきたい。

#### 4 今後の課題

本調査研究を通じて、特別支援学校（病弱教育）の教育課程編成において、学力補償と自立活動の学習実施に向けて、各学校は様々な工夫を行って対応していることが把握された。

今回は、単純に授業時数への着目であったが、その背景となる児童の実態や指導の成果等について、視点を移していきたいところである。今回の結果から、高学年では、自立活動の時間確保策として、総合的な学習の時間削減での対応例が多くみられ、さらに一部の学校では、道徳、特別活動を調整対象としていた。武田（2006）<sup>17</sup>は、自立活動の活動内容の選定や、特別活動や総合的な学習の時間の内容との区別が、病弱教育担当校の課題となっていることを取り上げているように、病弱教育の自立活動の指導の実際において、学力補償など各教科の学習との関連から求められることと、自立活動の必要な学びを適切に判断して教育課程編成していくことは、担当教師の専門性の1つの柱として捉えていくべきものであろう。

考察でも触れた、本調査で把握された時間数において、どのような内容の指導が行われているか、また、その選択に至った各学校の考え方の把握や、個別の指導計画における取扱い、カリキュラム・マネジメントにおける個別の指導計画との関連など指導事例にかかわりつつ、特別支援学校（病弱教育）の教育課程の特性について検討していきたい。

#### 引用・参考文献

- 1 文部科学省 病気療養児の教育に関する調査研究協力者会議『病気療養児の教育について（審議のまとめ）』，1988年
- 2 武田鉄郎「病気障害の受容とセルフケア」(小野次郎・西牧謙吾・榎原洋一編著『特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理』ミネルヴァ書房，2011年，pp.202-203.
- 3 文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領 平成29年4月告示』海文堂出版，2017年，pp.66.
- 4 文部科学省2017，op.cit. pp.63.
- 5 Ibid.,p.66.
- 6 文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）平成30年3月』開隆堂出，2018年，pp.160.
- 7 武田鉄郎「病弱教育における自立活動の行き詰まりとその打開策」(日本特殊教育学会『特殊教育学研究 44（3）』2006年，pp.165-178.
- 8 古屋義博「病弱学級の教育課程に関する事例研究」(山梨大学教育人間科学部附

属教育実践総合センター『教育実践学研究13』2008年, pp.146-158.)

- 9 文部科学省「特別支援教育資料 令和3年度」  
[https://www.mext.go.jp/content/20221206-mxt\\_tokubetu02-000026303\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20221206-mxt_tokubetu02-000026303_2.pdf)
- 10 文部科学省2017, op.cit. ,pp.77.
- 11 北島善夫、細川かおり、真鍋 健、石田祥代、宮寺千恵「特別支援学校における教育課程ならびに指導法の現代的課題」(千葉大学教育学部『千葉大学教育学部研究紀要 第66巻 第2号』, pp.125. 2018年)
- 12 文部科学省2017, op.cit. ,pp.75-77
- 13 全国特別支援学校長会「5.病弱特別支援学校」(『平成30年度実態調査』 <https://zentokucho.jp/h30-reality/>)
- 14 文部科学省2017, op.cit. ,pp.199
- 15 全国特別支援学校病弱教育校長会『特別支援学校学習指導要領等を踏まえた病気の子どものための教育必携』ジアース教育新社, 2020年, pp.54-55.
- 16 杉本久吉「筋ジストロフィー児の自立活動の指導についての一考察」(創価大学教育学部『創価大学教育学論集 第73号』2021, pp.300.)
- 17 武田鉄郎 2006, op.cit. ,pp.171.

**Curriculum for Elementary department of Special Needs  
Education Schools that provide education to students with  
health impairment**  
—From the viewpoint of academic ability compensation and time setting  
for Jiritsukatsudo (Activities to Promote Independence) —

**Hisayoshi SUGIMOTO**

This survey was conducted to provide students who are planning to become teachers at special-needs schools with information on the actual curricular structure that serves as a framework for teaching. The survey was conducted using school websites to determine how the number of class periods for academic compensation and Jiritsukatsudo (Activities to Promote Independence) were distributed.

The results showed that, as a general trend of the collected data, two Jiritsukatsudo (Activities to Promote Independence) periods per week are set aside for independent activities, and that in order to secure these periods, the number of periods is allocated from Japanese and physical education for 1 st and 2 nd graders, and from physical education and integrated learning for 3 rd graders and above. In terms of the total number of class hours, it was also found that some schools organized their classes by adding the number of hours for Jiritsukatsudo (Activities to Promote Independence) to the standard number of class hours for elementary school, since the total number of class hours exceeded the standard number of hours for elementary school by about 10-16 hours.